

# 西南小の風

だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい

## 今の判断を信じて...

月日	曜	病欠	事故欠	停止	※
8月28日	月	17	6	5	3
8月29日	火	24	7	6	8
8月30日	水	25	2	5	3
8月31日	木	25	1	6	5
9月1日	金	25	4	6	5

学校再開後一週間が経ちました。先週五日間の出席状況は左の表のとおりです。(単位は人)

欠席(病欠+事故)に関して、新型コロナウイルスが五類に移行した後の数を平均すると約二八人なので、ほぼ平均値で推移しており、学校再開の一週間に欠席が集中していることはないようです。欠席数は時期によって上下しますが、今までで言えば六月の欠席が最も多く平均三三人を超えていました。また、出席停止は五類移行後は当然ながらグッと少なくなりました。

は何かというところ、保護者からの児童の様子を聞き取った上で、「登校しづり」と判断した人数です。これは人数として少ないからいいとか多いから問題とかいうものではなく、それに悩む保護者がいるという事実を学校では受け止めています。もはや「九月一日問題」と名付けられる社会問題としてメディアにも頻繁に取りあげられ、登校を促すかどうかを判断するチェックリストまで開発されています。子どもの「登校しづり」は、長期休み明けに増える傾向にあります。それぞれの子どもの適切な声かけや対応をしたいと思えます。保護者の皆さまも同じ気持ちだと思います。子どもに向き合って、話を聞いて、気持ちを持って判断すべきことだから、メディアで取りあげられたチェックリストやアプリに違和感を感じます。難しい問題ではあります。悩むべき問題です。大人が思考停止になるようなことは避けたいです。前述のチェックリストはLINE上で、最後に医師や専門家の所見がつくようですが、子どもを見ない、よく知らない人の判断はちょっと怖い気がし、

ます。参考程度の活用にするべきではないかと個人的には思います。と考えていたら、実際にそのような使い方をしたいと説明には書かれていました。

また、登校を促す判断は正解がわからないものです。「人生万事塞翁が馬」と言います。人生において何が幸せや災いの原因になるかわからないということです。しかし、子育てに関しては当てはまらない部分もあるのではないかと考えます。私たちが子どもを理解して下した判断であれば、たとえそれが子どもにとっては辛いことであっても、状況が悪化したとしても、長い目で見れば正しい判断になると信じます。

また、外的要因により学校に行きたいのに行けないのであれば、不登校は悪いことではないとも思います。学校という場に自分は向いてないと思った。これからの自分の将来や、進む道を家族と一緒に悩んで考えた。そして、自分のやるべきことや、やりたいことができる場所や方法が学校外に見つけ、家族の意見も聞いて、最終的に学校に行かない判断をした。これも是です。要は子どもの居場所があるかどうかだと思います。選択肢が少なく、制度的にもそうした選択がしづらい現状ですが、これまでも家族と一緒に悩んで悩んで、数年かけて居場所を見つけた生徒もいました。私たちは教員ですので学校にこだわる部分がありますが、子どもにも居場所があるのが何よりなのです。

今何らかの判断したとしても、子どもとの関わりはずっと続きます。そうした関わりが重なり、それまでの数々の判断を子どもの幸せにつなげていくと考えています。

涙を流したり、うつむいたりしている子どもの手を引いて、学校に来られる保護者の方々が日々おられます。親として不安な気持ちでいらっしゃるの間違いありません。それでも、皆さん明るくご挨拶いただいています。そんな保護者の方々の姿や思いを職員で共有しながら、教育活動に取り組んでいきます。

### 朝からパワーゲット!

まさに今朝のことです。私が汗だくになって落葉を掃いているところに、気づけば四年生の女の子が、大きな竹ぼうきを小さな身体で精一杯動かして掃いてくれました。感激して「ありがとう!」と声を掛けるとニッコリ。もうね、元気もりもりですよ私。うれしかあ! それに、五年生も手伝ってくれましたよ!